58. ワーク / ワーシップ（仕事 / 礼拝）Work/W

自分の責任を回避してはいけません!

自分がやるワークのなかでは強烈に生きていましょう。そして、人間として可能なことならなんでもやりつづけましょう。それでいて同時に、どのような緊張も創らずに、欲求不満にならずに、結果にこだわることなく、自

ひとりのマスターが、弟子のひとりと旅をしていた。その弟子には、駱駝（らくだ）の面倒を見る役目があった。彼らは夜になって、疲れて隊商宿(たいしょうやど)に着いた。駱駝を繋ぐのはその弟子の義務だった。彼は

朝になって、駱駝はいなくなっていた――盗まれたか、さ迷い出たか、起こるべきことが起こった。マスターはたずねた。「駱駝はどこにいる? 」

すると弟子は言った。「私は知りません。神に聞いてください。私はアラーに駱駝の面倒を見てくれるように伝えました。

私はとても疲れていたのです。ですから私はどうなったのか知りません。それに、私には責任もありません。私はアラーにはっきりと伝えたのですから！ それにあなたは、『アラーを信頼しなさい』と教えつづけています

マスターは言った。「アラーを信頼するがいい。だが、まず自分の駱駝を先に繋ぎなさい――アラーはお前の手以外に手をもっていないからだ」

もし神が駱駝を繋ぎたければ、誰かの手を使わなければならない――ほかに神の手はない。それに、それはあなたの駱駝だ！ もっとも良くて、もっとも簡単で、もっとも手短な方法は、自分の手を使うことだ。駱駝を

これが駱駝を繋ぐ意味だ。自分にできることをなんでもやるがいい。自分の責任を回避してはいけない。その後は、なにも起こらなくても、あるいはなにかがうまくゆかなくても、アラーを信頼することだ……。

アラーを信頼して、怠けていることは、非常に簡単だ。アラーを信頼せずに、やり手でいることは、非常に簡単だ。人間の三番目のタイプは――アラーを信頼して、しかもやり手のままでいることは、むずかしい。だが

人間として可能なことならなんでもやりつづけるが、そのことで緊張を創らない人が宗教的な人だ。そのときには、行為はある種の祈りだ。結果はこうあるべきだという欲望はない。そうなったら欲求不満はない。信頼が、

THE WISDOM OF THE SANDS, Vol.1, pp.70-72

Revision #3
Created 5 October 2024 23:27:36 by ゆう
Updated 26 October 2024 03:00:40 by ゆう